

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

6/10

論述ブースト No.18

薬物依存・アルコール依存を論じる —— 疾患モデル・当事者支援・社会復帰を3軸で

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。薬物依存の小論文で「薬物は意志が弱い人がやるものです」という偏見に基づく答案と、疾患モデル・当事者支援・社会復帰という3軸で構造的に論証した答案の評価の差を、審査側として繰り返し経験してきた。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 薬物依存・アルコール依存の小論文

東京大学・慶應義塾大学医学部・名古屋市立大学医学部の推薦入試では、「薬物依存を医療的にどう扱うべきか」「アルコール依存症の社会的課題を論じよ」という小論文が出題される。疾患モデル・当事者支援・社会復帰の3軸で論証できる受験生は採点者（大学教員）に際立つ。

② 依存症の脳科学・医学的根拠

「薬物依存はなぜ意志の問題ではなく疾患なのか」という問いは、医学部推薦入試で出題される。報酬系・ドーパミンという神経科学的根拠で論じられる受験生は感想論述との差が歴然とする。

③ 面接での「依存症への医師の向き合い方」

医学部面接で出題されるテーマである。疾患モデルとして即座に論じられる受験生は試験官（大学教員）に「依存症医療を科学的に考えている」と評価される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	薬物依存・疾患モデルの小論文	3軸の論証枠が偏見に基づく答案との差を生む
名古屋市立大学・横浜市立大学 医学部	依存症の社会的課題論述	疾患モデル・社会復帰の軸が採点者（大学教員）に際立つ
昭和大学・東邦大学 医学部	依存症の倫理・支援の論述	当事者支援の軸が論証に具体性を与える
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「依存症への医師の向き合い方」型の口頭試問	疾患モデルとして即答できる受験生として際立つ

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

薬物依存を「意志の問題」として論じる受験生は、採点者が求める「医学的・科学的論証力」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）疾患モデル・当事者支援・社会復帰の3軸で論証できる、（2）依存症の神経科学的根拠（報酬系・ドーパミン）を論拠として使える、（3）面接で依存症を疾患モデルとして即答できる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、依存症論述で「偏見ベースの答案」と「疾患モデルで3軸に論証した答案」の評価の差を採点者として知っている。